

前提知識の習得支援を目的とした 英語番組教材の分析方法に関する調査

Research on analysis method of TV and radio broadcasting program of English study
for the purpose of learning support of prerequisite knowledge

天野 慧** 江川良裕* 中野裕司*

Kei Amano Yoshihiro Ekawa Hiroshi Nakano

鈴木克明* 合田美子*

Katsuaki Suzuki Yoshiko Goda

熊本大学* 株式会社 NHK 出版**

Kumamoto University NHK Publishing INC.

〈あらまし〉 本研究は、前提知識の習得を支援するウェブサイトの試作を目的とした、英語番組教材の分析方法に関する報告である。前提知識の習得支援を行うためには、各教材の構成に適した分析をする必要がある。先行研究をもとに、教材の系列パターンに基づく前提知識の調査方法を整理し、今後の課題についてまとめた。

〈キーワード〉 インストラクショナルデザイン、語学教育、放送教育、系列パターン、前提知識

1. はじめに

第二言語習得学習においては、前提知識の不足を補い、学習者の習得レベルに応じた教材を提供することが求められている。たとえば、Kracshen(1982)は第二言語習得学習には学習者の理解可能なインプットが必要であるとしている。また、インストラクショナルデザインの分野では、前提条件を明確にして、学習者のレベルに適した教材を設計することが重要なプロセスとされている(鈴木 2002)。テレビとラジオで放送をしている NHK 英語番組教材においては、講座ごとにメソッドやジャンルが異なるものの、各教材の課題構成に適した前提知識の習得支援がなされていないという課題がある。

本研究では、前提知識の習得を支援するウェブサイトの試作を目的として、先行文献をもとに教材の分析方法を調査した結果を報告する。

2. 前提知識の分析方法

(1) 本研究における前提知識の定義

ディックら(2004)は前提知識の特徴として、①学習者の一般的な特性(読解力や言語力、学習スタイル)とは区別される学習の前提条件②テストで計測可能なもの③教材には収載されていない基礎的な知識の3つを挙げている。学習者の一般的な特性は学習を進める上で学習効果を最大化

する上では補助的な役割を果たすものの、それを前提知識に含めてしまうと、教材で教える内容は膨大となってしまう。また、それらがどのような技能であるか明確に出来ない場合は、そもそも教授することができない。そのため、教授することができる前提知識と学習者の一般的特性を区別するための手段として、テストで測定出来るものかどうかということが判断基準の一つになる。さらに、教材での学習に必須ではあるが、「学習者に教えないスキル(インストラクションでは取り上げないスキル)」を前提知識としている。

(2) 外国語番組教材における学習成果分類

外国語番組教材の学習成果を分類したものに、鈴木(1989)がある(図1)。学習成果を単語の語源や構造などを扱う「意味論」に対応する学習成果と、文法事項に代表される「統語論」に分類している。この2つの学習成果は言語の直感的な運用能力を構成する「読む」「書く」「聞く」「話す」という4つの技能領域のすべての前提条件となっている。特に、「意味論」と「統語論」の学習成果を分析していく上で重要となってくるのが、既に学んだ語彙などの学習内容を繰り返し「述べることができる」ようになることをめざす「言語情報」と、学んだことを未知の事例に「適用することができる」という「知的技能」の学習成果であ

る。繰り返し「述べることができる」とされている以上、「言語情報」に属する標的目標は課題の中ですべて解説がなされていること、また課題を遂行するにあたって「知的技能」の下位技能が習得済みとなっていなければならない。

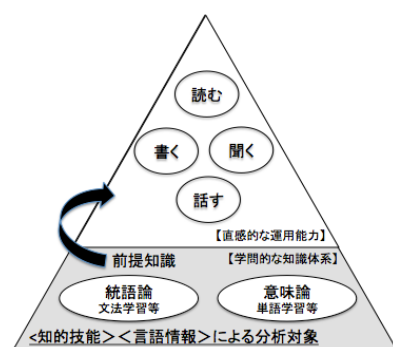


図1 外国語番組学習における学習成果の分類
鈴木(1989)をもとに作成

3. 系列パターン

系列パターンとは、学習課題をどのような順序で構成するかを分類したものであり、この違いによって前提知識の習得支援のために必要な介入が変わってくることが予測される。たとえば、前の講座が次の講座の前提となるような系列化がきちんとなされているカリキュラムの場合、前提知識の習得支援のためには前の教材を推薦すればよい。一方で、毎回新しいテーマの学習課題が提示され、以前の講座が新しい講座の学習の前提となっていない場合は、前提知識の習得支援のためには、別の介入が必要になってくるだろう。

表1 系列化の種類と特徴

系列パターン	特徴
階層型	前の講座が次の講座と前提となるような系列化がきちんとなされている教材。
知識基盤型	毎回新しいテーマが提示される教材で学習内容の選択は学習者に委ねられる。
螺旋型	徐々に課題の複雑さが増していき、教材を通して能力が積み上げられていくような教材。

ガニェら(2007)は教材の系列パターンを3つに類型化している。①階層型②知識基盤型③螺旋型である。それぞれの特徴について表1にまとめた。3つのパターンをもとに教材を分析する。

4. まとめと今後の課題

先行研究をもとに外国語番組教材における前提知識の分析方法と、一般的な教材におけるカリキュラムの系列パターンについて調査した。外国語番組教材の前提知識の分析にあたっては、「読む」「書く」「聞く」「話す」という学習成果分類すべての前提となる意味論と統語論の学習成果に着目し、言語情報と知的技能の角度から学習課題を分析する方法がある。また、その際には分析した前提知識がカリキュラムの中でどのように構成されているか(あるいはされていないか)という系列パターンの視点から検討し、必要な介入を明らかにしなければならない。

今後の課題は、こうした方法論をもとに、NHK英語番組教材を分析することである。特に、系列パターンについてはガニェの3分類に限らず、さまざまなパターンが出てくることが予測される。きちんと階層化がなされている教材か、カリキュラム内の一部が階層化されている教材かによって必要な学習支援が異なってくるだろう。したがって、この方法をもとに教材を分析し、前提知識の習得支援を目的とした場合に、どのような視点を加える必要があるかを検討する。また、そうした分析を行った上で、ウェブ技術を用いて学習者に対し、どのような学習支援が可能となるか検討する必要があるだろう。

参考文献

- ディック, ケアリー, ケアリー (著) 角 行之 (監訳) (2004) 初めてのインストラクショナルデザイン. ピアソン・エデュケーション. 東京
- ガニェ, ウェイジャー, ゴラス, ケラー (著) 鈴木克明, 岩崎信 (監訳) (2007) インストラクショナルデザインの原理. 北大路書房. 京都
- Krashen, S. D. (1982) Principles and Practice in Second Language Acquisition. Pergamon Press Inc.
- 鈴木克明 (2002) 教材設計マニュアル. 北大路書房. 京都
- 鈴木克明 (1989) テレビ放送番組による外国語教育を補うドリル型 CAI の構築について. 放送教育研究, 17:21-37